



株の小学校

－株のよくわからないところをスッキリと!!!－

株の学校カブックス

代表 藤井 百七郎

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

<e-mail>fujii@openingbell.net

<mobile>090-8154-1277

web:http://www.openingbell.net/

facebook:http://facebook.com/ramdamlife1966

facebookofiice:https://www.facebook.com/kabcksn

agoya

brog:http://ameblo.jp/mohichirofujii/

.....

■ 実に41年ぶりの株価の上昇

2013年、日本の株式相場は記録的な上昇となりました。

あの田中角栄首相の「日本列島改造論」で沸いた

1972年以来、実に41年ぶりの年間上昇率を記録しました。

政権が民主党からかわり、安倍首相への期待、アベノミクスが日本の株式のほとんどもを大きな上昇へと導きました。

アベノミクスへの期待、

それは…

景気回復への期待でした

日本の景気が良くなるので、その先行指標である日本の株式が買われました。ですから、日本の株式相場は大きな上昇をしました。

今から振り返ると、2012年11月ころに日本の株を買っておけば、2013年の年末にはとても大きな利益をとったこととなります。

「あのときに買ってたらすごく儲かった…」

「売らずに持っていれば、今頃は…」

後悔先に先に立たず！

…たら、…れば

世界一おいしい「タラレバ定食」ともいいます。

株式の大相場は突然にやってきます。

そのワンチャンス、ばっちりのタイミングで株を買うことが求められます。

相場が上がるにしても、下げるにしても、大きく動いているときに利益を出す最大のチャンスとなります。

過ぎてしまったものは仕方ありません。

相場のグッドタイミングはワンチャンスです。

逃してしまったら次のチャンスまで待たなくてははいけません。

電車に乗り遅れたら、次の電車を待つしかありません。

次のチャンスに逃さないために…

次の電車に乗り遅れないようには、どのようにすればいいのかご案内していきます。

■そもそも株式って何？

そもそも、株式投資の株式って何でしょう。

企業が3大要因としては次の3つがあります。

- ・人
- ・モノ
- ・金

人とは人材、

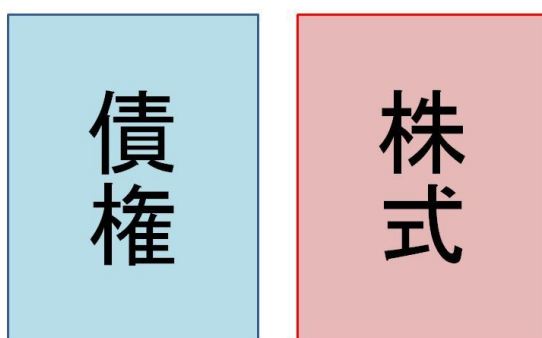
モノとは製品（コンテンツ）、

金とは運営資金のことです。

企業の運営資金調達の方法としては次の2種類があります。

- 1・社債
- 2・株式

企業の資金調達の種類



社債とはその名の通り、会社が発行する債券です。

社債も株式も買ってもらうのは投資家ですが、それぞれに少し性質が違います。

債券はメリットとして、会社は売上から約束した利回り以上に支払う必要はありません。しかし、デメリットとしては必ず期限までに返済しないといけないという義務が発生します。

ところが、株式は投資家に対して、返済の義務がありません。

仮に会社が倒産しても、投資家が出資したお金を返済しなくてもいいのです。

ですから、会社側としては債券を発行して返済の心配をするよりは、返済義務の株式を投資家を買ってもらったほうが助かるのです。

■株主のメリットって？

では一方、株式を買った投資家、つまり株主にはいったいどのようなメリットがあるのでしょうか。

主に株主のメリットとしては次の5つがあります。

1. 会社の経営に参加できる
2. 配当がもらえる（インカムゲイン）
3. 会社が解散したら、財産の分配がもらえる
4. 株主優待
5. 値上がり利益（キャピタルゲイン）

それぞれのメリット、デメリットについて紹介していきます。

1・会社の経営に参加できる



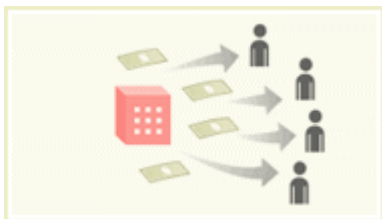
その会社の株式を持っていると（保有していると）、年に一度もしくは不定期に開催される株主総会に参加することができます。

株主総会では、今後の会社の運営方針などが株主に対して説明されます。その説明をするのは会社の社長であつたりもします。その運営方針などに対して、株主であれば異論をうったえることもできるのです。

つまり、会社において、一番偉いのは社長ではなくて、株主ということなのです。株主は会社の運営に参加することができ、場合によっては会社の役員の変更するなどの多数決への議決権ももっているのです。

自分の好きな会社であれば、好きなその会社の運営に携われるのですから魅力的なお話しですね。

2・配当がもらえる（インカムゲイン）



会社には決算期があります。日本の会社の場合、3月末が一番多いです。決算期に株主であると、会社より配当金がでます。難しい言葉でいうとインカムゲインといいます。配当の額や売上からの配当金の分配比率（配当性向）は会社によって違いますが、一般的には通常の銀行の定期預金より高いのです。たとえば2014年2月での東証一部銘柄の平均配当利回り（どれくらいの金利で配当がでているのかの数値）ですと、1.6%となっています。一般的な銀行の定期預金の金利が0.04%ですから、株式の配当金もとても魅力的です。ただし、株価は一定ではありません。変動します。いくら配当が多くても、それ以上に株価が下がってしまえば損が出ることを覚えておいてください。

3・会社が解散したら、財産の分配がもらえる

不幸にして、保有していた会社が倒産した場合ですが、保有していた株式の分だけ、会社の財産（工場、土地、製品など）を精算したお金を投資家に分配してくれますが、もちろん、保有していた株式の価値はなくなり、紙くず同然となります。会社が倒産する前に処分したほうが賢明です。今後に再上場してくれば、価値は戻りますが、それまでにどれくらいの時間がかかるかは誰にもわかりません。これを残余財産分配請求権（ざんよざいさんぶんぱいせいきゆうけん）といいます。

4・株主優待

配当金と同じように決算日に株主であれば、企業から株主優待をもらう権利を有します。どのようなものをどれくらいくれるかは企業によってまちまちです。大体はその企業の製品であることが多いです。自分の好きな商品の企業であれば、好きな商品が無料で送られてくるのですから楽しみですね。よくこの株主優待目当てに株主になる方も多いのですが、商品の価格以上に株価が下がれば、結果的に損になるので注意が必要です。

月ごとの株主優待の商品を紹介しているサイトがありますので参考にしてください。

○株主優待人気ランキング

<http://www.kabuyutai.com/ninki/>



サイトマップ ネット証券比較 株主優待 高配当 投資日記

楽しい株主優待&配当

～ 株主優待・高配当銘柄の比較～

株主優待人気ランキング

[トップ](#) > 株主優待人気ランキング

株主優待人気ランキング

ここでは、年ごと・月ごとの優待人気ランキングを紹介していきます。
全ての企業をのせるのではなく、人気があり、かつ管理人が判断してよさそうなものをピックアップしています(銘柄名・優待内容・必要金額・優待+配当利回り※をのせています)。

(※優待+配当利回りとは、『(優待金額+配当金額)÷株価』を示しています。)

<年別でみる優待人気ランキング>

- ・ [2013年の優待人気ランキング](#)

<月別でみる優待人気ランキング>

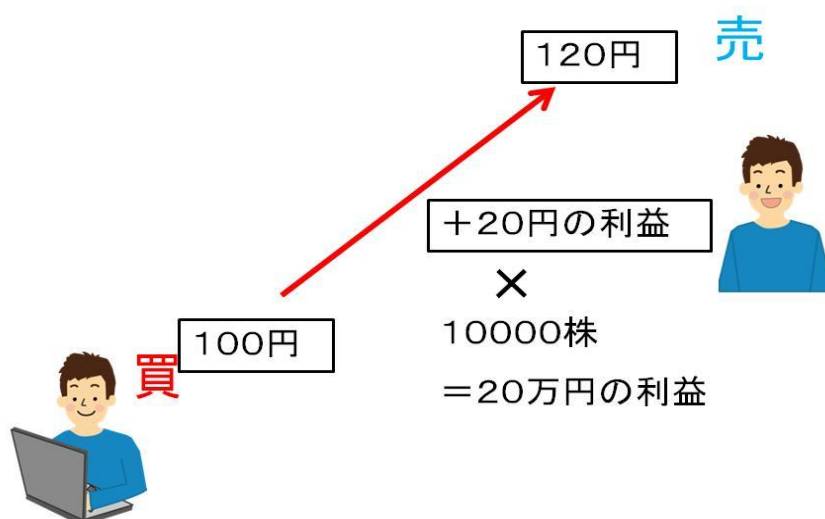
- ・ [1月の優待人気ランキング](#)
- ・ [2月の優待人気ランキング](#)
- ・ [3月の優待人気ランキング](#)

5・値上がり利益（キャピタルゲイン）

株主のメリットで一番魅力的なのは何といっても値が利益でしょう。キャピタルゲインともいいます。買った値段より高く売れば、値上がった分だけ利益が得られます。

○値上がりして売った場合の利益イメージ

値上がり利益はどれくらい？



100円で買った株が120円に値上がりしたので売りました。
10,000株を購入したとします。

計算式：(売った株価－買った株価) × 株数

(120円－100円) × 10,000株

= 20万円の利益

■ 株価はどうやって決まる？

FXのような為替と違って、株の取引は相対取引です。つまり、自分が売りたいくても買ってくれる人がいないと売買が成立しません。

たとえば、100円で買いたいとしても、売りたい人が101円以上でないと売らないとなっていては買えません。100円で売ってくれる人が出てこないと買えないのです。

どの値段にどれくらいの人買いと売りの注文を出しているのかを知るのが売買板と呼ばれるものです。

○ 売買板

8074/T		ユアサ商	
東証1部		終値	
↓	131	15:00	
	-3	-2.23%	
売買高	131		
	136	44	
	135	59	
	134	34	
売	133	49	
・	132	33	
・	131	54	
買	130	127	
	129	61	
	128	56	
	127	48	

注文の株価

注文の株数

上の図を見てください。132円以上で売りたい人の注文、131円以下に買いたい人の注文が入っているのがわかります。買いたい人はなるべく安く買いたいですし、売りたい人はなるべく高く売りたいです。双方の折り合いのついた値段、それが『株価』になります。

■株注文の専門用語

約定（やくじょう）

株等の売買が成立すること。

ザラバ

寄付と引けの間の取引時間中のことを指します。また前場、後場の寄付と引けとの間に行われる売買をザラ場商いとといいます。（前場、後場の寄付（始値）と引け（終値）は板寄で決定します。）

前場（ぜんば）

証券取引所における午前の取引時間のことを指し、東証の場合 9時から 11時 30分までの時間帯を指します。

後場（ごば）

証券取引所における午後の取引時間のことを指し、東証の場合 12時 30分より 15時までの時間帯を指します。

成行注文（なりゆきちゅうもん）

自分で値段を決めないで出す注文。

指値注文（さしねちゅうもん）

自分の売買したい値段を決めて出す注文。

■ 株価はオークション形式で決められていく。

株価はオークション形式で決められていきます。
よくテレビで見る競り（せり）のようなものです。



希少価値があったり、人気のあるものには信じられない様な値段がつけられることもあります。株価も同じように買いたい人がたくさんいると、前の値段よりは信じられないくらいに高い株価になることがあります。反対に誰も買いたくない様な会社の株は、買いたい人より売りたい人のほうが増えるので株価は下げていくものです。

株価と言うのは買いたい人と売りたい人の力関係で決まっていくという側面も持っているのです。

■株の注文の仕方の種類

同じ株を買うにしても2種類の注文の入れ方があります。

○指値注文：値段を指定して注文を入れる

○成り行き注文：いくらでもいいので買いたいという注文

8074/T		ユアサ商	
東証1部		終値	
↓	131	15:00	
	-3	-2.23%	
売買高	131		
売	136	44	
	135	59	
	134	34	
	133	49	
	-	132	33
買	-	131	54
	-	130	127
	-	129	61
	-	128	56
-	127	48	

上の売買板を見てください。

この板の状態で指値注文「130円で買い」といれたとしましょう。すると、いま売りたい人の一番安い注文が132円ですからまだ買えません。130円で売ってもいいという人が出てこない限り買えません。逆に成り行き注文にした場合、いくらでもいいので買いたい意思表示になり、132円で買えてしまいます。指値注文の場合は自分の都合のいい値段で買えますが、必ず買えるとは限りません。逆に成り行き注文は必ず買えますが、想定外の高い値段で買ってしまうリスクもあるので、注文を入れるときはどっちにするのか注意が必要です。

■株式投資にはどれくらいのお金がかかるのか？

株式投資には最低どのくらいお金がかかるとお思いますか？10万円ぐらい？100万円？いや500万円ほど？どれも正解です。これは株の値段がとてもバラエティに富んでいるからです。

例えば、東証一部上場のソフトバンクは100株単位で取引できます。

2006年3月末の株価は3,450円ですから、手数料を除く最低投資金額は34万5千円となります。一時話題となったヤフーのように1億円以上の株価をつけた銘柄もあります。

最近では少額でも株式を購入できる制度が整ったため、1万円からでも株式を購入することができるようになりました。

■単元株制度とは？

上場株式の売買単位は1,000株単位が約半数となっています。これは2001年9月までの「単位株制度」の50円額面の場合の売買単位である1,000株をそのまま採用しているからです。2001年10月の商法改正によって、単元株制度が導入されたことに伴い、単位株制度は廃止されました。2001年10月1日から、企業で発行される株式は全て無額面株式＝額面金額の定めがない株式となっています。

「単位株制度」は額面が50円や500円の株券を、額面の合計が5万円になるようにし、その5万円を1単位とする制度で（50円額面なら1,000株、500円額面なら100株といった具合）、2001年9月まで採用されてきました。しかし、2001年10月に改正商法が施行され、「単位株制度」は廃止され、代わりに企業が売買単位を自由に決められる「単元株制度」が導入されました。単元株制度は、一定株数を1単位とし、証券取引所における取引や、議決権を行使をすることができ、また、発行企業が一定株数を自由に変えることができることが特徴といえるでしょう。

1単元に満たない株式を単元未満株といいます。配当等を受ける経済的な権利はありますが、議決権等経営に参加する権利はありません。株式市場で売買することはできませんが買取請求制度を利用すれば、単元未満株を売却することができます。買取請求をした場合の買取価格は、上場株式の場合は、株主が買取を請求した日の、証券取引所の終値となっています。

いくらお金が必要？

◆ 単元株(たんげんかぶ)制度

(例)

サイボウズ(4776): 1株単位

ハニーズ(2792) : 10株単位

トヨタ自動車(7203): 100株単位

東芝(6502) : 1000株単位

企業によって、単元株数が決められている

(例)

7203 トヨタの株価が 6000 円のとくに、トヨタの株を買うには

最低購入金額 = 株価 × 単元株数

= 6000 円 × 100 株

= 60 万円

トヨタの株価が 6000 円の場合は最低 60 万円のお金が必要となります。

■どこで株を買える？

株は証券取引所で売買が行われています。

証券取引所は東京、大阪、名古屋、北海道、福岡などにありますが、一番たくさん取引が行われているのは、東京証券取引所です。

略して『東証（とうしょう）』と呼ばれています。



〒103-8220 東京都中央区日本橋兜町 2-1

○取引されている時間

月～金曜日（平日）

前場：9：00～11：30

後場：12：30～15：00

しかし、我々一般人が東証に株を買いに行っても売ってくれません…

■ではどうやったら株を買えるのか？

我々が直接に東証に行っても株は買えません。

証券仲介業者である「証券会社」に注文をお願いして、証券会社に株を買ってもらうしかありません。(ブローカー業務)

○実際に株を買うまでの流れ

【1】 証券会社に口座を開く

株を買うには、まず証券会社に自分の口座が必要となります。この口座というのは、銀行の口座と似ています。また、お金がなくても口座を開くことができます。特に最近はネット証券が主流になりつつあるので、口座管理料も無料の証券会社が増えています。

【2】 自分の口座にお金を振り込む

これは、銀行間の一般的な振込みと全く同じです。銀行や郵便局から証券会社で開設したご自分の口座にお金を振り込んでください。証券会社や振り込む銀行によっては、手数料無料のところもあります。

【3】 買う株を選ぶ

自分が買いたい株を選びます。株を選ぶときは、今後値上がりする株を選ぶなければなりません。株取引に慣れるまでは、よく知っているような身近な株がいいかもしれません。

【4】 注文を出す(株の購入方法)

買う株が決まったら、証券会社に注文を出します。これは、レストランなどの注文と同じです。どの株(銘柄)を何株(株数)買うのかの注文を出します。注文方法は2種類あり、株価がいくらでもいいから買う(成り行き注文)と自分で買う価格を決める(指値注文)があります。

【5】 取引成立する(約定)

出した注文が取引成立することを約定(やくじょう)といいます。約定した場合、その株は晴れてあなたのものになります。ネット証券では株券は発行されませんが、パソコン上で確認することができます。もし取引が成立しなかった場合は、もちろんお金は戻ってきます。

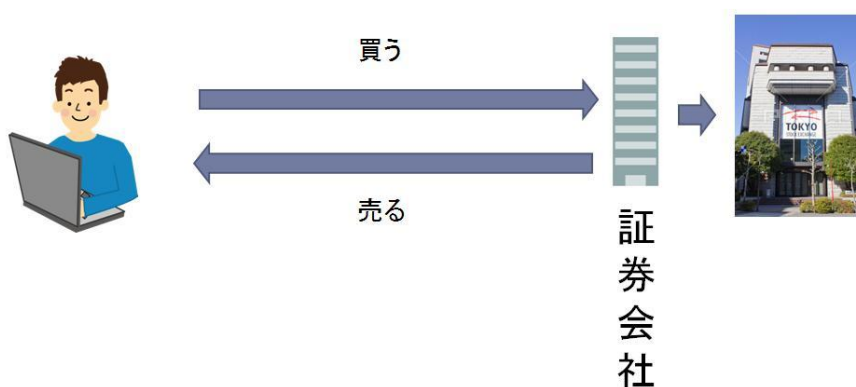
■証券会社の選び方

大手証券会社、ネット証券会社も含めると、たくさんの証券会社があります。どの証券会社で注文を出すのか迷うところですが、いくつかポイントがあります。

1・売買手数料

株を買う時、それから売るときにそれぞれ、手数料を証券会社に支払わなくてはなりません。この手数料が証券会社によってまちまちです。売買手数料は投資家にとってコストですから、安いにこしたことはありません。

売買手数料が安い



○証券会社手数料比較サイト

http://kakaku.com/stock/?cid=stock_v_g_001

2・使い勝手

いくら手数料が安くても、注文が入れにくかったり、注文の訂正、変更、取消がわかりにくかったり、サポートの対応が遅かったりしてはいけません。手数料だけでなくこういった面からも選ぶことが重要です。

■ 株価はなぜ動く？

一般的にいわれている株価変動の要因です。

1) 外部要因

外部要因の代表的なものには、「景気」、「金利」、「為替」、「財政」、「技術革新」、「政局」、「海外動向」等が挙げられます。なかでも株価への影響の大きいと見られる「景気」、「金利」、「為替」について見てみましょう。

2) 景気

「景気」は企業業績と密接な関係があり循環を繰り返していることから、景気の動向を読むことは株価を見る上で非常に重要となります。市場関係者の多くは「鉱工業生産指数」や「景気動向指数」等を参考に今後の景気を予測しています。また、景気に敏感な株を「景気敏感株」を呼び、設備投資関連株や市況株（素材株）等に代表されます。

3) 金利

「金利」も企業の財務面を通じ企業活動に影響を与えることから、景気と並び企業業績への影響が高い要因となっています。また、株式以外の金融商品との相対的な比較感から、金利低下局面では株式に対し優位性を与えたり、金利上昇局面では株式の優位性が低下する等、直接的に株価へ大きな影響を与えています。こうしたことから、企業業績と金利を株価原動力の両輪にたとえる市場関係者も見られます。「金利敏感株」としては金融、公益、建設（住宅）、不動産株等が挙げられます。

株価はなぜ動く…？



4) 為替

「為替」の変動は企業業績に大きな影響を与える他、外国人投資家の動向にも密接な関係を持っています。これは外国人投資家にとって、株式のリターン以外に為替差益が重要となるからです。「円安メリット」を受けるセクターの代表は電気、精密、自動車であり、「円高メリット」を受けるセクターは石油、電力、ガス等が挙げられます。

5) 内部要因

内部要因は、「投資主体別売買動向」、「信用取組み」、「裁定取引状況」、「ファイナンス動向」等のように、直接的に株式需給に影響を与える要因を示します。外部要因に比べ短期的な影響が大きく攪乱要因となることもあります。目先の株価変動を捕らえたい向きはその動向を注視しています。

上記はすべて、一般的に言われている株価の要因です。

しかし、株価を決める一番の要因は“需給関係”です。その銘柄を買いたいと、売りたい力の力関係です。

株価は買われる、売られる力関係が崩れたとき、動いた時に大きく動き始めます。その瞬間をどうやって我々個人投資家が見極めていくのが重要です。なぜなら我々個人投資家には、機関投資家ほど情報が入ってこないからです。

2種類の投資家

投資家にも2種類ある



機関投資家



個人投資家

■ 株価が動く本当の理由とは…

最初のほうで株価はオークション形式で決まると言ったのを覚えていますでしょうか。



人気のある会社の株価は上がり…

人気のない会社の株価は下がる…

業績が良くても下がる会社もあれば…

業績が悪くても株価が上がる会社もあります…

景気が良くて、為替も円安で、金利の影響も受けず、内部要因もいいのにそれでも株価が下がる会社もあります…

なぜでしょう…???

それは、

株価を動かしている、“直接的要因”は、外部要因や為替、金利、景気、内部要因などではなく、その会社の株を**買いたい人と売りたい人の力関係**にあるからです。

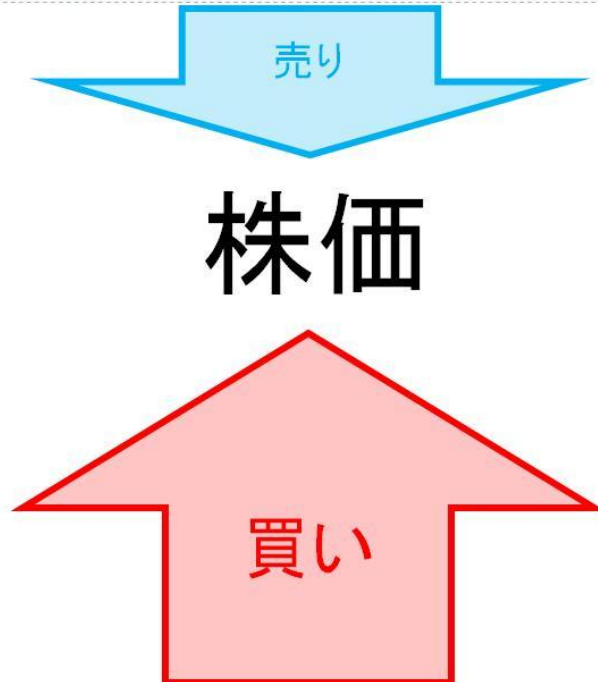
■買いたい人と売りたい人の力関係

買いたい人と売りたい人の関係。買う人、提供する人ということですから需給関係といってもいいかもしれませんが。買いたい人があまりにもたくさんいると売る側としては、安く売ってしまうのはもったいないのもっと高値で売ってやろうとなります。それでも、買いたい人が後を絶たないようであればさらに株価は上がっていくこととなります。

逆に買いたい人がいなくなると、売る側は値を下げるしかありません。値を下げてでも買う人がいない状況となれば、さらに値を下げるしかありません。こうなると株価は下降の一途をたどるわけです。

外部要因や為替、金利、景気、内部要因などは株価を動かす材料ではありますが、直接的に株価を動かしているのは、買いたい人と売りたい人の需給関係です。

需給関係とは…

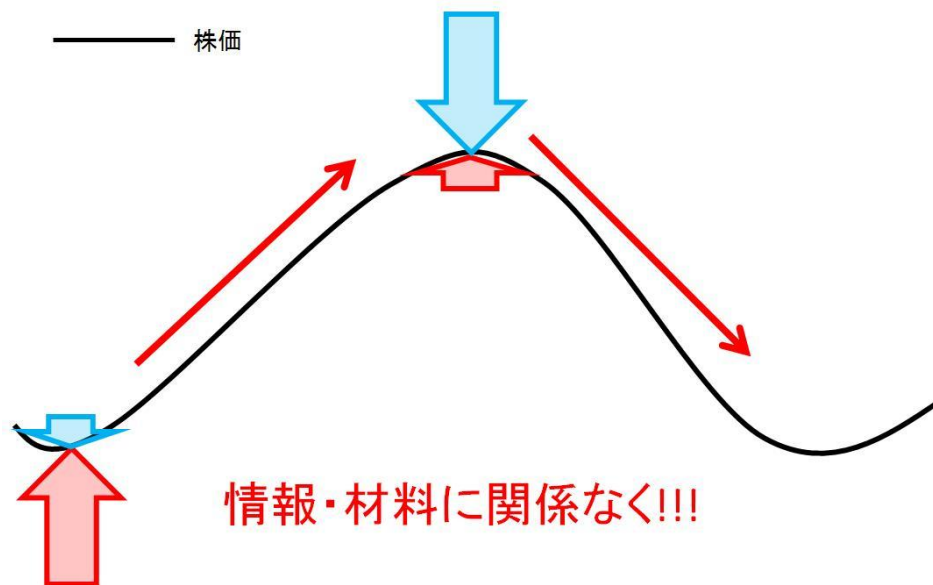


■買った人もいずれ売る側になる

株を買った人は買った株を現物で孫に渡すと考えている人以外はどこかで売りたいと考えています。なぜなら、株価と言うのは一定ではなく、上がるだけでなく下がりもするからです。いつまでも持っている、せつかく値が利した株価も下げてしまい、利益がなくなってしまうからです。

ですから、株価はある程度値上がりしてくると、買いたい人の力より売りたい人の力が増してきます。『利益確定の売り』が出やすくなるわけです。

株価が上昇していくと売りの力が強くなる



最初はなぜ、せつかく上がった株を売ってしまうのだらうと疑問を持つかもしれませんが、それが『人間の心理』なのです。

買った投資家の気持ちになってみてください！

そのうちいつかは下がると知っている株価です。

ならば下がる前に売ってしまおう！

投資をしているのは生身の人間なのです…

■投資家の2つの心理

投資家は生身の人間です。機械ではありません。人間が動くのは機械のように理論や理屈、インプットされたデータではありません。

人間が動くのは『感情』です。

人間を動かしているのは理屈ではなく、感情なのです。

買いたい、持っていたい、売ってしまいたい…

この感情が買う、売りの作業をさせています。

投資家の頭の中には2つの心理が働いています。

「まだ上がるのではないか」という欲と

「もう下がるのではないか」という恐怖です。

この投資家の欲と恐怖が相場を動かしていると言って過言ではありません。

買った株の株価が上昇していくに従って、投資家の欲より恐怖のほうが強くなっていきます。以前は気に入って、期待して買って保持を続けてきた株ですが値が高くなるに従って、だんだんと売ってしまいたいという恐怖が頭の中を支配して行くようになります。この恐怖が保持したい気持ちを上回ったときに投資家は株を売るという行為を行います。

恐怖が欲を上回ると投資家は株を売ります。

株は売られると下がります。

外部要因や為替、金利、景気、内部要因に関係なく。



■どのようにして投資家の心理を知るのか？

株価を動かす直接的要因は、株価の需給関係ということでした。

その需給関係を決めているのは、投資家の心理ということでした。

株式投資で利益をあげるには、投資家の心理を知ることによって達成できます。

ではどのようにしたら、投資家の心理を知ることができるのでしょうか？

実際に直接に投資家に行って、気持ちを伺うことは不可能です。新聞やニュース、ネットからの情報なんて信用できたものではありません。現在ではわざと自分に都合のいい情報をネットで流して、利益を横取りしていく輩も増えてきました。山のような情報から、真の情報をつかまえていくのは無理です。

資金が豊富にあり、本業で、日中も相場を監視してられる機関投資家であれば、いち早く役に立つ情報を収集することができるでしょうが、我々個人投資家には到底無理です。ネットで裏の裏まで嗅ぎまわって、我々個人投資家が情報を集めても、役に立つ情報は手に入りません。

情報は手に入らない…

手に入った情報さえ役に立たない…

情報では勝てない…

ですから、我々個人投資家は情報は捨てるという戦略に出るしかないのです!!!



■投資家心理を読み解く最高のツール

情報戦では勝ち目のない我々個人投資が株で利益をあげるためには投資家の心理を読み解くこと。

投資家の心理を読み解くための最高のツール

それが

株価チャートです!!!



株価チャートは情報のように、仕入れる側によって鮮度や信用度が違ったり、びっくりするような高額な値がついたりすることはありません。

すべてのトレーダーに対して、公平に提供されるツールなのです。

株価チャートを見て株を売買することを、テクニカル分析といいます。

■テクニカル分析とファンダメンタル分析

どの銘柄を選んで、どこで買って、どこで売るなどの判断をする際に大きく分けて2通りの分析方法があります。テクニカル分析とファンダメンタル分析です。

○テクニカル分析

将来の取引価格の変化を過去に発生した価格や出来高等の取引実績の時系列パターンから予想・分析しようとする手法であると定義されています。

○ファンダメンタル分析

財務諸表、健全性、経営、競争優位性、競合相手、市場などを分析することである。先物や為替に適用する場合は、経済、金利、製品、賃金、企業経営の全般的な状況に着目する手法と定義されています。

簡単にいうと、テクニカル分析は過去の動きから未来の動きを予想し、ファンダメンタル分析はいまある情報から未来を予想するとなります。

両者を比較すると下記の図のようになります。

テクニカル分析とファンダメンタル分析

ファンダメンタル分析

- 情報や企業環境で判断
- 企業価値に投資する
- 成長性、将来性に期待する
- 中長期向き
- 資金がたくさんなら有利
- 農耕的作業

テクニカル分析

- 株価チャートで判断
- 今の株価に資金を投資
- 値動きに期待する
- 中短期向き
- 資金が少なくても可能
- 狩猟的

■どっちが個人投資家にあった分析方法なのか？

前ページの図の赤のアンダーラインをみてください。

テクニカル分析、ファンダメンタル分析それぞれにメリット、デメリット、長所短所があります。一口に個人投資家と言っても、環境、経験、知識、資金が違いますから一概にはいえませんが、資金と投資期間の観点からどちらがいいのかとかんがえるとテクニカル分析のほうが個人投資家にはあっています。

一般的な個人投資家の投資資金は100～500万円程度ですし、投資期間も中短期投資だからです。

テクニカル分析とファンダメンタル分析

<u>ファンダメンタル分析</u>	<u>テクニカル分析</u>
<ul style="list-style-type: none">•中長期向き 5～10年～一生•資金がたくさんなら有利 数千万～1億～無限	<ul style="list-style-type: none">•中短期向き 1日～1ヶ月～1年•資金が少なくても可能 最低100万～500万

投資期間の話しになったので、付け加えておきます。

投資期間が長期より中短期のほうがいい理由としては、

- 1・長期の先を読むことは難しいからです。

日本が昔のように右肩上がりの経済であれば、長期投資は有効でした。しかし、いまは高度経済成長期のような上昇は見込めません。日本の経済は緩やかに成長と下降を繰り返していくことが見込まれるからです。

2・株を持っていること自体がストレスになるからです。

株を持っている、ポジションを持っているということは、自分の株の株価が上がるか下がるか注意を払っておかねばならないということです。時に株価はほんの一瞬目を離したすきに暴落する性質もあることを忘れてはいけません。現に2013年5月23日に日経平均はたった1日で1400円近くの暴落をしました。何の前触れもなく、何の際立った理由もなくです…ある個人投資家は仕事から帰ってくるとそれまであった1000万円ほどの含み益が、5月23日にはマイナス80万円になっていたそうです。わずか1日で1100万円ほどの資産を失ったこととなります。株を持っていること自体、ストレスになるわけですから、なるべく早く手仕舞ったほうがストレスは少ないです。



■テクニカル分析とは？

これまでテクニカル分析の重要性と有効性について説明してきました。それでもファンダメンタル分析のほうがいいという方もいます。特に昭和の時代から株をやってこられたベテランの個人投資家には多いようです。

彼らがいうには「テクニカル分析はオカルトだ！」というのです。

テクニカル分析には信憑性がないということなのでしょう。

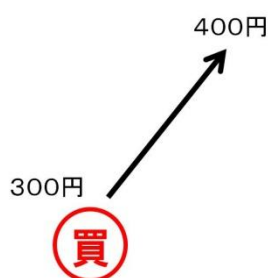
信憑性を裏付けるには、『なぜなのか!?』を証明するしかありません。

代表的なテクニカル分析を例にとって、信憑性を裏付けしていきましょう。

■テクニカル分析の信憑性

さて、ここから実際に自分が株を買って保持していると想像してください。

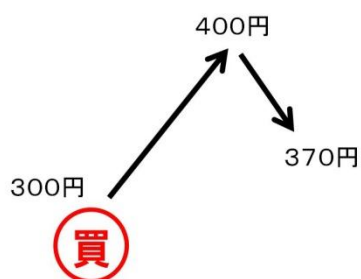
300円で買った株価が400円まで上昇して行きました。



10,000株買っていればあなたの今の含み益は100万円になります。
とてもホットな気分ですね！

ところが、そこは株価ですから変動します。

400円から370円に値下がりしました。



この時点であなたの含み益はまだ70万円あります。

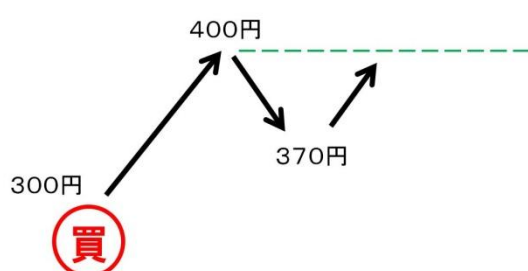
「300円で買って370円で70万円も利益があるのだからいいだろう」

というのは他人の意見で、**本人**は違うはずです!!!

■投資家の頭の中では…

人の心理、投資家の心理を考える時、いま手元にある70万円の利益ではなく、400円のとて売っておけばとれていた30万円の利益、つまり失ってしまった利益に目がいくものです。

この投資家の心理が今後の株価の動きに影響を与えます。



さあ、ほどなくして、株価は以前に売っておけばよかったと後悔している400円まで戻ってきてくれました。

このとき、あなたのテンション、集中力はピークを迎えているはずです。

なぜなら、

「400円で売っておけばよかった」と後悔しているからです。

400円という数字が頭の中を支配しているからです。

神が与えてくれば最後のチャンスのように思えるからです!!!

もう一度想像してください…

このときあなたはこのやきもきする、ドキドキする銘柄との縁を切ろうか、それとも続けようか、真剣に考えているはずです。

多くの方は次のように考えるはずですか!?

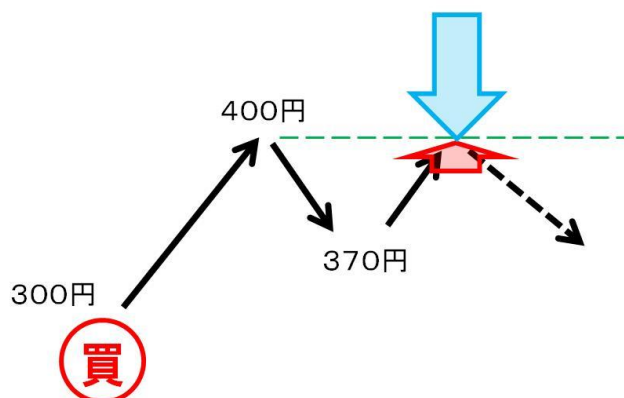
■ 400円抜けなければ売ってしまおう!!!

売ってしまえばよかったと後悔していた400円に再び戻ってきました。失ったと思っていた利益の30万円がいま目の前にあります。もう一度、その30万円が目の前から消えてしまうショックを味わいたくはありません。

通常の間人、投資家であればこう考えるはずです…

『400円を抜けなければ売ってしまおう!!!』

つまり、この銘柄の場合、400円を抜けなければと売ってしまおうという投資家の売りの力が買いの力より強くなるので需給関係上、下がることを考えられます。逆に400円を抜けていくようなら、売りの力が働かないので買いの力が強くなり需給関係上、株価があがることを予想されます。



400円を抜けなければ売り、抜けるなら保持（買い）

○直近の高値を抜けなければ売り、抜けるなら買い

テクニカル分析でいうところの『ダウ理論』と呼ばれる分析指標です。

■テクニカル分析は投資家の心理を視覚化、理論化したもの

前項で説明した通り、テクニカルはオカルトでも後付けでもなく、“投資家の心理を視覚化、理論化”したものです。これまでのたくさんの株価研究者が投資家の心理という側面と膨大なデータで証明され、正しく理由づけされた分析手法なのです。ですから後世に生きる我々は先人が作ってくれたテクニカル分析理論に基づいて売買していけば十分に利益を狙えるわけです。

グランビルの法則、ボリンジャーバンド、一目均衡表などなど…

先人の研究者たちに感謝しながら、テクニカル分析を使っていけばいいのです。

彼らたちが作ってくれた売買のサイン、ルールを参考にしてトレードしていけば十分に利益を狙っていけるのです。

ただし…

このテクニカル分析において難点があるとすれば、

あまりにもテクニカル分析の手法、指標、理論が多いことです。

指標が多すぎる…(汗)

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| • 株価移動平均線 | • 逆ウオッチ曲線 | • MACD |
| • トレンドライン | • エンベロープ | • RSI |
| • ボリンジャーバンド | • 逆さチャート | • ストキャスティクス |
| • グランビルの法則 | • ケルトナー・チャンネル | • エリオット波動 |
| • 波動理論 | • ATR | • 価格帯別出来高 |
| • ダウ理論 | • モメンタム | • 酒田五法 |
| • 移動平均線かい離率 | • DPO | • フィボナッチ数 |
| • 信用取引残高 | • ROC | • HLバンド |
| • パーテーションライン | • レシオケーター | • ボリュームレシオ |
| • 空の理論 | • ポイント&フィギア | • サイコロジカルライン |
| • 一目均衡表 | • 線形回帰トレンド | • 騰落レシオ |
| • DMI | • ボリュームレシオ | • ヒストカルV |
| | • パラボリック | • 新値3本足 |
| | • プライスオシレーター | などなど…α |

■最低限知っておいてほしいテクニカル分析指標

テクニカル分析の手法、指標、理論をすべて網羅しようとするとなんとも6か月から1年、人によっては3年くらいはかかるでしょう。そうなると大変です…
数あるテクニカル分析の中から、自分にあったものを見つけていく作業も大事になってきます。

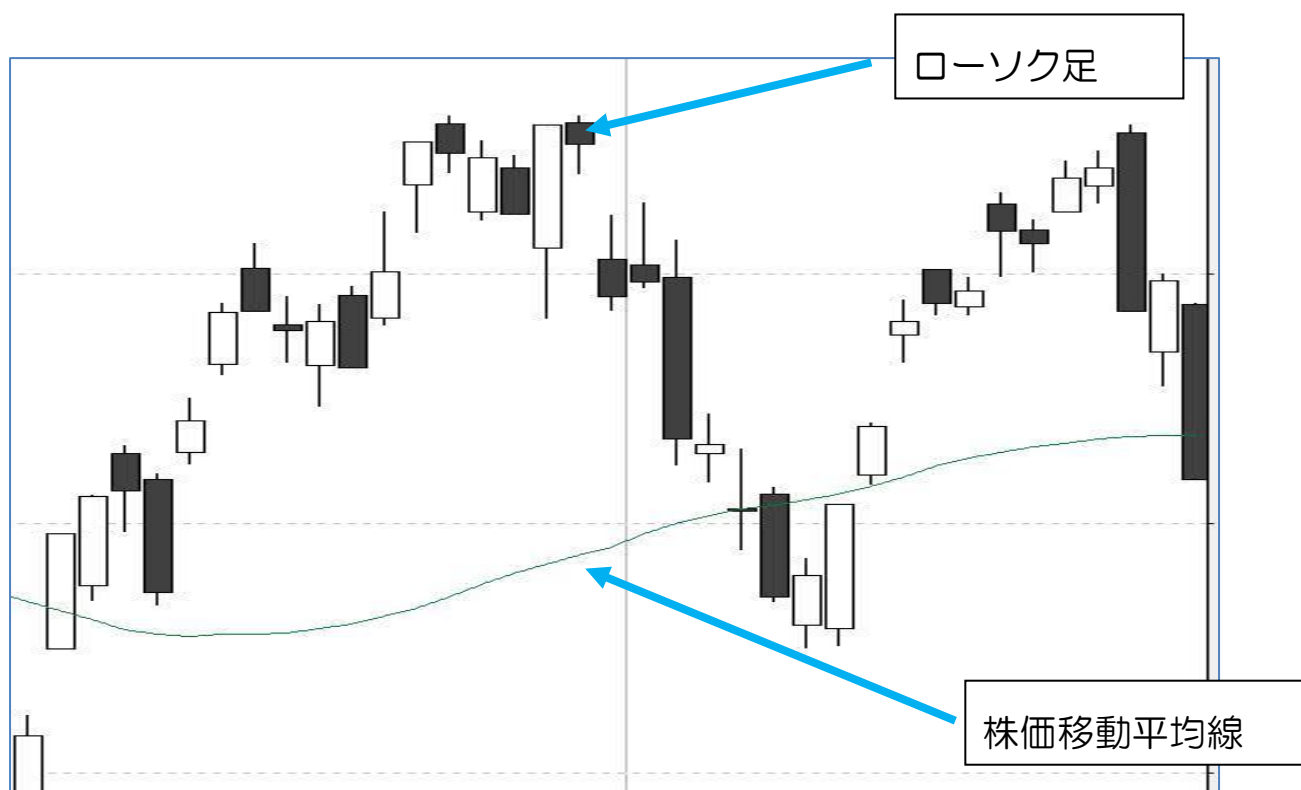
まずは基本的なテクニカル分析指標としては、

○ローソク足

○株価移動平均線

この2つに関してはしっかりと理解しておくことをおすすめします。

この2つを知っているだけで、日経平均のチャートを見ただけで明日の動きがおおよそ予想することができる素晴らしいテクニカル分析指標です。



■多くの投資家が負けている…

これまでのところをまとめてみましょう。

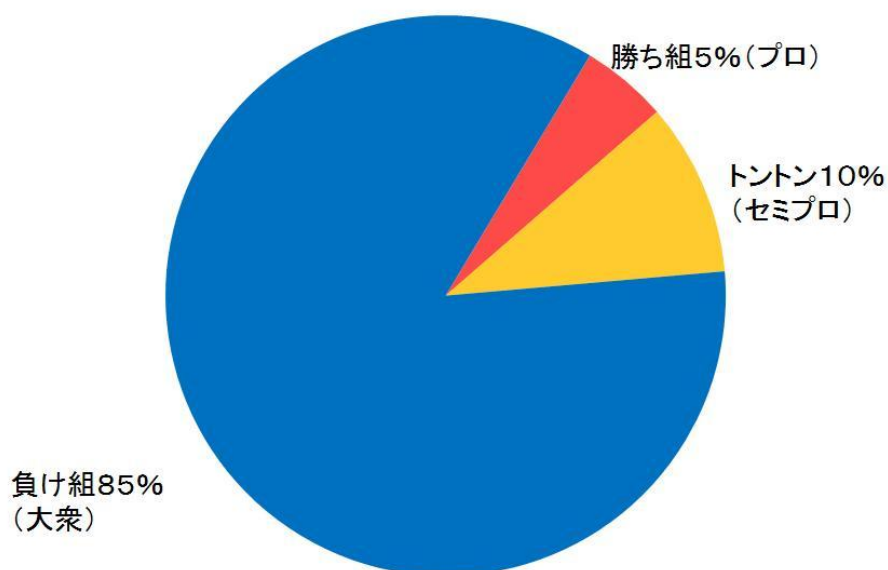
- 株価を動かしているのは、需給関係である。
- 需給関係を知るには投資家の心理を読み解けばいい
- 投資家の心理を読み解くには株価チャートがいい
- 株価チャートはテクニカル分析で売買サインを見つける
- テクニカル分析のサイン通りに売買すれば利益が期待できる

いたってシンプルな流れだと思いませんか？

しかし…

ここに一つのデータがあります。

どれくらいの人が株で負けているのか…



■実に95%の投資家が負けています。

全体の投資家の中でいつも勝っているのは5%、トントン10%、負け組85%。驚くことにこの数字は地域、年代が変わっても同じ数字になるそうです。いつの時代も、どの国でも95%の人は株で負けているということです。また、多くの投資家は株デビューしてから3カ月以内にマイナス20%の損失を出して、相場から退場していくというデータもあります。

テクニカル分析のサイン通りに売買すれば利益が期待できるはずなのに、なぜ95%もの人が負けてしまうのでしょうか…？

■多くの投資家が負ける理由

多くの投資家が負ける理由はたった2つです。

1・ルールを知らない

2・ルールを守れない

たったこれだけです…

■ 1・売買ルールを覚える

売買ルールを覚えるのは左程難しいことではありません。本屋に行って、株のテキスト本を買って一生懸命に勉強するのもいいでしょうし、WEBからマニュアルをダウンロードして引用するのもいいですし、セミナー、スクールに参加して時間をかけてしっかりとスキルを身につけるのもいいです。株式投資のいいところでもあり、悪いところでもあるのは、株式投資をはじめるとに免許がいらぬことです。自動車を運転する時には必ず自動車学校に通って、運転免許をとります。なぜなら何も知らないで運転すると事故を起こすからです。しかし、株式投資はなにも勉強しないではじめる人が多いので、すぐに事故、損を出してしまいます。もう一度言いますが、株を勉強しないで株デビューすると3カ月以内にマイナス20%の損失を出して、相場から退場していきます。これまでのデータが物語っています。

株式投資で利益を得ていきたいなら、きちんと勉強されることをおすすめします。

儲けることではなく、まずは負けないスキルを身につけることをおすすめします。

焦らずともじゅうぶんに勉強して、ルールを知ってから株をはじめればいいです。

株式相場はこれからもずっとありますから、慌ててはじめなくても大丈夫です。



■ 2・ルールを守る

ルールを覚えることは左程難しくありません。しかし、守るとなると難しいようです。わかっているやってしまう…それが人間ですし、投資家も人間です。ダイエット中に食べちゃいけないとわかっているやってしまうものです。トレードでの話しになると、しなくてはいけないのにやらないでしまう。

それが…

ロスカット（損切り）です。

トレードの世界においては、予想が反対に行った場合は損が小さいうちに逃げる事が資金を守る唯一の手段です。そのまま放置しておく、損失はドンドンと膨らみ資金のすべてを失う可能性があるからです。

守れないルールが一番多いのが、このロスカットをしないです。

優秀で生き残るトレーダーというのは、利益ももちろん引っ張りますが、ポンポンとロスカットをします。ロスカットが生き残る最善の方法であることを知っているからです。

勝てないトレーダーはそれまで積み上げてきた利益を、たった一回のトレードでふいにしてしまいます。原因はロスカットをしなかったからです。

この苦手なロスカットはどのようにしたらできるようになるのでしょうか…？

簡単なことです。

ロスカットを習慣にすればいいのです。

ではどのようにして習慣にできるのか…？

簡単です。

コーチを持てばいいのです。

■ルールを守るが習慣になるには？

ロスカットをする、しない、できる、できないは性格ではありません。

習慣です。

歯磨きと同じです。

寝る前に歯を磨くのは技術的に難しいではありません。磨く習慣があるから磨いているのです。

では子供頃、生まれつきの習性で歯を磨いたかというところではありませんね。

歯を磨きなさいと親が言ったから磨くようになったのですね。

それで、今では歯を磨くのが当たり前、習慣になっているのです。

ロスカットや売買ルールを守るのも同じです。

「ロスカットしましょう、ルールを守りましょう」と言ってくれる人がいればいいのです。

売買ルールの守れるトレーダーになるにはコーチを持つのが一番です。

口酸っぱくして「ロスカットしましょう、ルールを守りましょう」と言ってくれるコーチが必要です。トレード経験者で、実際に利益を出していて、あなたのことを心配してくれるコーチ、マスター、メンターが必要です。

うまくいくやり方は上手く知っている人から教わるのが一番です。

うまく知っている人と時間を一緒に過ごせばそれだけで何か伝わるものです。

あなたが株で将来的に利益をあげたいと願っているなら、実際にいま株で利益を出しているコーチ、マスター、メンターを持つことをおすすめします。



■最後に

ある保険会社の調査によると、日本の国民の87%の人が定年後のお金、収入に関して不安を持っているそうです。また、現状の公的年金の支給では最低限の生活さえ送れないことが分かっています。45年間、厚生年金を払っていたとしても最低限の生活をするためにあと6万円も足りないそうです。

多くの方が不安を抱えながらもどうしたらいいのか分からずにいます。

逆に難しそうに思える株式投資ですが、毎月、株式投資で利益をあげて生計を立てている人もたくさんいます。

株式投資は難しそうに思えるだけで、実はそうではないんです。

定年後のお金に不安を持っている方でも十分にできる可能性はあるのです。

誰にだって資格はありますし、トライするチャンスはあるのです。

きちんとルールを覚えて、ルールを守りさえすれば、大儲けはできなくても大損することはありません。

大損さえしなければ相場に生き残ります。

生き残れば経験を積みます。

経験を積みば誰だってうまくなります。

将来の公的年金に不安を持っているならば、株式投資に少しでも興味を持ってみることをおすすめします。

やってみてダメだったら、自分に向いていなかったらやめればいいのです。

大きな損が出ないうちにやめればいいのです。

人によって、欲しい金額は違うと思いますが、毎月5～10万円を願っているのなら、株式投資で毎月5～10万円だけを狙う作戦をとればいいのです。

朝から晩までパソコンにかじりついてトレードをしなくても十分に利益を狙う方法はいくらでもあります。

あなたの目的、サイズに合わせたやり方を選べばいいのです。

株で得たお金をどのように使う方はあなたの自由です。
生活費に充てるもいいでしょうし、家族との時間に費やすのもいいでしょう。
株で得たお金というのは働いて得たお金とは違った充実感があるものです。

株式投資を使って、今より一つ上の、また今あるマイナスを一つでもあなたの生活から減らせるように活用する計画を持ってみてください。

株式投資は難しいものではありません。

誰にだってやってみるチャンスはあります。

せっかく株式投資に興味を持たれたのですから、もう一つ一歩前へ、もう一段上のステップへ進まれることをおすすめします。

私の株式投資があなたをはじめ87%もの将来のお金に不安を持っている人たちの一助になり、日本全体が明るく活気づくことを祈ってやみません。

最後までお読みいただきありがとうございました。



株の学校カブックス 代表
藤井 百七郎